

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～

(Ref No : 22-013)

1 パラオは入国要件としている新型コロナの出発前検査（※陰性証明書）を7月9日から撤廃する。

[原文](#)

(24<sup>th</sup> June 2022, Island Times)

2 ミクロネシア連邦は、8月1日に国境を開放するため、入国制限の緩和及び外国人旅行者受入れの準備を進めている。

[原文](#)

(22<sup>nd</sup> June 2022, Pacific Island Times)

3 7月中旬の太平洋諸島フォーラム（PIF）首脳会議（於：フィジー）は、同地域をとりまき激化する地政学的競争の影響を避けるため、米国、中国、その他主要国数カ国を除外して開催される見込み。PIFには米国、中国、EU、日本、韓国、カナダ、インド、シンガポール、英国など21の対話パートナーがあり、ここ数十年はPIF首脳会議期間中にパートナーとの対面会議も開催されていたが、今年は開催されず、オンライン開催又は年後半の対面開催になると見込まれる。なお、豪州は正会員であり、アルバニー首相は既に出席を表明している。

[原文](#)

(24<sup>th</sup> June 2022, ABC News)

4 米国ホワイトハウスは、米国、豪州、日本、ニュージーランド及び英国が太平洋島嶼国との経済・外交関係を強化することを目的とした非公式なグループ「Partners in the Blue Pacific (PBP)」を立ち上げたと発表した。バイデン政権は、中国が外国資本を渴望している太平洋島嶼国との経済、軍事及び警察のつながりを強化しようとしている中、インド太平洋により多くの資源を投入すると宣言している。

Framework for Pacific RegionalismやBoe宣言などの既存の調整メカニズムについての言及はほとんどなく、太平洋島嶼国地域において増大する中国の影響力に対抗するための新たな政策としての位置づけがされているとみられる。

[原文](#)

(24<sup>th</sup> June 2022, Reuters)

[原文](#)

(1<sup>st</sup> July 2022, Marshall Islands Journal)

※参考：ホワイトハウス（[リンク](#)参照）

5 フィジー国防相は、シャングリラダイアログで、太平洋が直面している最大の安全保障上の脅威は戦争ではなく気候変動であると注意を促した。フランス国防相は、南太平洋でのプレゼンスを強化し、太平洋地域における法の支配と各国の主権へのコミットメントを表明した。これには、ニューカレドニアと仏領ポリネシアでの新たな巡視船の配備や、多国間防衛演習が含まれる。

クック諸島は船齢 33 年の Te Kukupa の代替として、豪州から新巡視船 Te Kukupa II を譲り受けた。豪州はさらに、同国ラロトンガ島にある海上監視センターの改修に 160 万豪ドル（※約 111 万ドル）を提供する。

コンパクト交渉担当米大統領特使のジョセフ・ユン氏がマーシャル諸島を訪問、コンパクト交渉の対面での両国会談を約 3 年ぶりに実施した。

[原文](#)

(23<sup>rd</sup> June 2022, Policy Forum)

[原文](#)

(16<sup>th</sup> June 2022, Radio NZ)

6 国連海洋会議がリスボンで開催。海洋の非常事態への緊急対応を呼びかける。アントニオ・グレーテス事務局長、太平洋諸国、ジョン・ケリー米大統領特使が発言。革新的で科学的知見に基づいた問題解決の必要性が議論に。

[原文](#)

(28<sup>th</sup> June 2022, Island Times)

[原文](#)

(29<sup>th</sup> June 2022, PACNEWS)

7 深海採掘が海底を破壊して生物多様性にダメージを与えるという懸念が高まっていることを踏まえ、パラオのウィップス大統領の主導によりパラオ、フィジー、サモアは、リスボンで開催された国連海洋会議のサイドイベントにおいて、当該新興産業のモラトリアムを呼びかけた。既に同様の意見を表明していたミクロネシア連邦、フィジー、パプアニューギニアに加わる形で、6 月初めにはバヌアツがチリとともに深海採掘に反対し、15 年間のモラトリアムへの支持を表明していた。国際海底機構 (International Seabed Authority) が、現在深海採掘の規制を策定する中、クック諸島やナウルなどは、この産業の発展を積極的に支持している。

[原文](#)

(29<sup>th</sup> June 2022, Radio NZ)

[原文](#)

(1<sup>st</sup> July 2022, Marshall Islands Journal)

8 日本財団の笹川会長は国連海洋会議で、エジンバラ大学と共同で島嶼国や沿岸地域の若手研究者の能力を育成する Ocean Voice イニシアチブを立ち上げることを発表した。笹川会長はまた、2024 年に東京で Global Island Summit 開催することを発表した。

[原文](#)

(27th June 2022, International Institute for Sustainable Development)

※参考：エジンバラ大学 ([リンク](#) 参照)

9 第 2 回国連海洋会議の公式サイドイベントとして、「日本財団-GEBCO Seabed 2030 プロジェクト」は、(※水深測量の) 海洋データがヨーロッパの面積に相当する範囲まで拡大したことを発表した。Seabed 2030 は日本財団と GEBCO (General Bathymetric Chart of the Oceans) の共同プロジェクトで、2030 年までに世界の海洋を完全にマッピングし、すべての海底データを、自由に利用可能な GEBCO Ocean Map に統合することを目的としている。Seabed 2030 は、5 年前に開催された第 1 回国連海洋会議において発足した。

[原文](#)

(29<sup>th</sup> June 2022, Seabed 2030)

## Blue Pacific Partnership launched



US and China flags.

Late last week saw the somewhat awaited announcement of the “Blue Pacific Partnership.” This brings together the US, New Zealand, Australia, the United Kingdom, and Japan in an “informal and inclusive” grouping to support the Pacific islands region.

The main focus of the group appears to be coordination of effort. This will certainly be of interest to Pacific island countries who can find the transaction costs associated with multiple donors onerous.

However, for an initiative that is focused on coordination there is little or no reference to coordination mechanisms that already exist such as the Framework for Pacific Regionalism or the Boe Declaration and associated Action Plan. This is likely to be seen as another move to counter the growth of Chinese influence in the Pacific islands region. It also reflects increased concern in Washington that the US needs to re-engage with the region, again as a counter to China.

## Pacific voices at Oceans Conference



**Tuvalu Foreign Minister  
Simon Kofe.**

The UN Oceans Conference is underway in Lisbon, Portugal. As travel restrictions ease, Pacific leaders and activists have been able to participate and highlight Pacific issues on a global platform.

A particular point of concern for the region is that of deep sea mining. Both Palau and Fiji have used the conference to call for a moratorium on this activity, seeking an “alliance” to prevent any further activity. Samoa has backed their

call. However, other countries in the region, such as Cook Islands and Nauru, are actively supportive of developing this industry.

This comes as the International Seabed Authority is drawing up regulations for deep sea mining.

The Foreign Minister for Tuvalu, Simon Kofe, abruptly pulled out of attending the conference. This was in response to China refusing to provide accreditation for Taiwanese members of Tuvalu’s delegation.